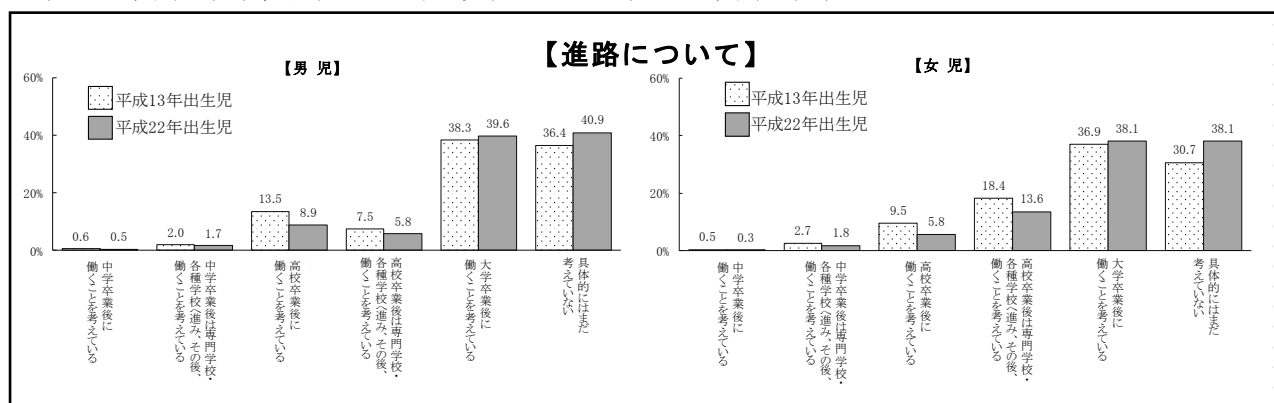




## 厚生労働省の調査結果から

厚生労働省が令和5年5月に、平成22年生まれの中学1年（現在中学2年）に対し、「21世紀出生児縦断調査」を実施したところ、平成13年出生児と比較して下のグラフのような結果が出ていました。（令和6年5月21日発表 厚生労働省 HP から一部抜粋）

子ども自身が考える将来（進路について）は、「具体的にまだ考えていない」の割合が最も高く、平成13年出生児と比べ上昇していることがわかります。※男児 40.9% 女児 38.1%（H22年出生児）、男児 36.4% 女児 30.7%（H13年出生児）



この他にも、平成22年出生児について、将来就きたい職業が決まっている子どもの割合は43.7%と平成13年出生児の47.9%と比べて4.2ポイント低くなっていました。

本校では6月からそれぞれの学年で「キャリア教育」を重点的に実施しています。例えば、3年生は親子進路説明会や高校体験、2年生は職場体験、1年生は職業調べ等、自己の生き方を考えることや職業学習などの社会体験、見学や調査、話し合いや発表など、発達段階に応じた勤労観・職業観を育成するための学習活動を予定しています。

## 自分の進む道を決めていく時期

中・高校生の時期は、自分の「やりたいこと」「なりたいもの」「在りたい姿」を見だし、できると信じ、やると決心し、行動し始める時期です。自分の人生設計を意識し始め、進路を少しずつ絞っていく、自分の進む道を決めていく時期でもあります。

先程のデータにあるように、自分の進路を考えようとしてもやりたいことが見つからない人は多くいることでしょう。そんな時は、いろいろな人やもの、出来事に関わってほしいと思っています。関わることで、それらに対して自分のできることが見えてきます。自分の中に生まれてくる「やりたいこと」「なりたいもの」「在りたい姿」を注意深く観察してみてください。

また、「やりたい」「できるかもしれない」と思いながらも、一歩前に踏み出す勇気がない人もいます。立ち止まったままでは一歩も進みません。たとえ一歩進んで二歩下がっても、人生では三歩進んだことになるのです。「私はやる」と決心して、一歩を踏み出してほしいと思います。しかし、やりたいことに挑戦すれば、失敗や困難に直面することは誰にでもあります。「失敗は成功のもと」とあるように、あきらめずに取り組めば、解決の糸口は見つかるものです。失敗や困難に陥っても、うなだれたままではいることなく、意識して顔を上げ、胸を張って、努力を続けてほしいと思います。

実は、一番重要なのは、始めに述べた「やりたいこと」「なりたいもの」「在りたい姿」を考える時期です。自分のその姿が見えていれば、前に進むことができるからです。しかも、この「やりたいこと」「なりたいもの」「在りたい姿」を考える時期は、一生のうちに何度もやってきます。世の中は広く、人やもの、ことにあふれていますので、たくさんのそれらに出会ってほしいと思っています。

